

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス			
教科目名	倫理	担当教員	阪上弘彬
学年学科	2 年 M・E・D 学科	通年	必修 2 単位
学習・教育目標			
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 本授業では、様々な哲学的・倫理的考え方について理解するとともに、その理解をもとにして現代の諸問題や現象を考えることを目的とする。 前期では様々な宗教の思想や思考方法・理論を取り上げることで、様々な哲学的・倫理的考え方について触れ、理解を図る。後期では、具体的な現代的、倫理的諸問題（例えば、環境や生命、家族など）を取り上げることで、諸問題の背景について理解するとともに、諸問題に対して自分なりの考えを形成したり、多様な解決案の中から倫理的に吟味したりすることを旨とする。		<b>成績評価の方法：</b> ・以下の成績評価の対象点を設ける。 前期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+課題 50 点(C) 後期：中間試験 100 点(A)+期末試験 100 点(B)+課題 50 点(C) 学年：前・後期の重みを等しくして成績評価を行なう。 ※各期および学年の成績評価は、A+B+C を 100 点に換算し総得点率で評価を行う。	
		<b>達成度評価の基準：</b> 以下の各要素についての達成度を評価する。 ①用語の意味を理解しているか。 ②世界の宗教について理解しているか。 ③持続可能な開発について理解し、持続可能な開発の視点から現代諸問題を評価しているか。 ④現代諸問題について、自己の意見を形成しているか。	
<b>授業の進め方とアドバイス：</b> 授業は、教員による講義やグループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーションなど様々な形式で進めていくことになるので、授業が円滑に進められるように教員の指示には真摯に対応するように求める。また、それぞれが学習を後にふりかえるため、かつ教員がそれぞれの学習の状況を知るため、各自ノートを用意し学習の記録をとることを推奨する。			
<b>教科書および参考書：</b> 教科書および参考書としては、『倫理』（東京書籍）、『アプローチ倫理資料集』（とうほう）を指定する。その他、必要に応じて学習材（プリント等）を配布する。			
<b>授業の概要と予定：前期</b>			AL のレベル
第 1 回：前期オリエンテーション			
第 2 回：青年期の課題と自己形成（1）			C
第 3 回：青年期の課題と自己形成（2）			C
第 4 回：人生における宗教－ユダヤ教			C
第 5 回：人生における宗教－キリスト教（1）			C
第 6 回：人生における宗教－キリスト教（2）			C
第 7 回：人生における宗教－イスラム教			C
第 8 回：中間試験			
第 9 回：人生における宗教－仏教（1）			C
第 10 回：人生における宗教－仏教（2）			C
第 11 回：人生における宗教－世界宗教と宗教問題（1）			C
第 12 回：人生における宗教－世界宗教と宗教問題（2）			C
第 13 回：人生の知恵－孔子と儒家の思想			C
第 14 回：人生の知恵－儒教の展開			C
<b>期末試験</b>			
第 15 回：学習のまとめ			
<b>授業の概要と予定：後期</b>			AL のレベル
第 16 回：後期オリエンテーション			
第 17 回：自然や科学技術と人間とのかかわり（1）			C
第 18 回：自然や科学技術と人間とのかかわり（2）			C
第 19 回：民主社会における人間のあり方（1）			C
第 20 回：民主社会における人間のあり方（2）			C

第21回：持続可能な開発とその考え方・理念（1）	C
第22回：持続可能な開発とその考え方・理念（2）	C
第23回：中間試験	
第24回：環境と倫理（1）	C
第25回：環境と倫理（2）	C
第26回：生命と倫理	C
第27回：現代の家族との課題	C
第28回：情報社会とその課題	C
第29回：グローバル化する時代と倫理	C
期末試験	
第30回：学習のまとめ	

評価規準(ルーブリック)

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	授業で扱った8割以上の人名等の用語について、その意味を説明することができる。	授業で扱った人名等の用語の重要なものについて、その意味を説明することができる。	授業で扱った人名等の用語の重要なものについても、その意味を説明することができない。
②	世界の宗教について、授業で扱った8割以上の用語等について、その意味を説明することができる。	世界の宗教について、授業で扱った用語等の重要なものについて、その意味を説明することができる。	世界の宗教について、授業で扱った用語等の重要なものについても、その意味を説明することができない。
③	「持続可能な開発」の概念を理解し、かつその概念を用いて現代諸問題を評価することができる。	「持続可能な開発」の概念を理解する、もしくはその概念を用いて現代諸問題を評価することができる。	「持続可能な開発」の概念を理解できず、またその概念を用いて現代諸問題を評価することができない。
④	現代諸問題について、様々な解決案(価値観)があることを理解し、かつその中から自己の意見を形成することができる。	現代諸問題について、様々な解決案(価値観)があることを理解する、もしくは自己の意見を形成することができる。	現代諸問題について、様々な解決案(価値観)があることを理解できず、また自己の意見を形成することができない。